

阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画に係る  
植生モニタリング計画

**1. 計画の概要**

(1) 本計画について

本計画は、「阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画（令和3（2021）年4月）」（以下「実施計画」という。）に基づいて、対策目標である「保全対象である生態系を構成する森林の更新及び高山植物の生育の維持」の達成に向けて必要となる植生モニタリングの計画を定めたものである。

(2) モニタリングの実施目的

実施計画に基づく保全対象「火山活動に基づく森林・高山植生からなる生態系」の植生の現状を確認することで、エゾシカが植生に与える影響を把握し、エゾシカ対策の基礎データとして活用することを目的として実施する。

(3) 計画期間

2022年4月～2026年3月の4年間とする。

**2. 基本方針**

(1) モニタリング対象とする植生

実施計画に基づき、「①阿寒地区・②摩周地区」に含まれる代表的な保全対象の中で、本公園を特徴付ける植生域等においてモニタリングを実施する。

表 モニタリング対象とする植生

		代表的な保全対象	本公園を特徴付ける植生
①阿寒地区	①-1	阿寒湖岸の森林、湖上に浮かぶ島々およびパンケトー・ペンケトーを含む雄阿寒岳一帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エゾマツやトドマツ等の亜寒帯性針葉樹林を主体とする良好な森林</li> <li>・火山活動に伴う地熱帯に成立した噴気孔植生</li> </ul>
	①-2	雌阿寒岳の中腹以上及びオンネトー周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本公園の白眉である雌阿寒岳の高山植物群落</li> <li>・アカエゾマツを主体とする原生林</li> </ul>
②摩周地区	②-1	屈斜路湖及び湖の北西側外輪山	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良好な自然景観を呈する湖岸及び中島の針広混交林</li> <li>・原始性の高い自然植生</li> </ul>
	②-2	硫黄山（アトサヌプリ）山麓及びその周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火山活動に伴う地熱帯に成立した噴気孔植生</li> <li>・自然性の高い針広混交林</li> <li>・火山砕屑物からなる平坦地に広がる植生</li> </ul>
	②-3	摩周カルデラの外輪山及び西別岳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摩周カルデラ外輪山に成立した亜高山植生及び高山植物</li> <li>・摩周カルデラ北側外輪山山麓における針広混交林の良好な森林景観</li> </ul>

## (2) モニタリング調査地点の選定

長期的な変化を捉えることが可能なように、過去のデータを有する既往モニタリング調査地点の活用を原則とする。

## (3) モニタリング手法

既往モニタリング調査時の調査手法や「阿寒摩周国立公園の森林植生に及ぼすエゾシカの影響把握に関する調査の手引き（令和3（2021）年3月、独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所）」を参考としつつ、モニタリング対象とする各植生の特性や調査の主眼ごとに適切な調査手法を採用する。

## (4) モニタリングの実施体制

本計画に示した植生モニタリングは、環境省が実施する。

その他、阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会（以下「協議会」という。）の構成員が別途実施する植生モニタリングの調査データは、可能な範囲で環境省に提供し、環境省が集約・整理した上で協議会に共有する。

### 3. 地区別のモニタリング計画

#### ①阿寒地区

##### ①-1 阿寒湖岸の森林、湖上に浮かぶ島々およびパンケトー・ペンケトーを含む雄阿寒岳一帯

公園を特徴付ける植生等	調査地点	調査の主眼
エゾマツやトドマツ等の亜寒帯性針葉樹林を主体とする良好な森林	阿寒湖岸森林	・森林更新の評価を行うために、防鹿柵内外の構成種や成長量の把握。
	阿寒湖北岸 国有林チウ ルイ川周辺	・現時点ではエゾシカの影響度合いが低いことから、エゾシカが植生に与える影響の把握。
	パンケトー	
火山活動に伴う地熱帯に成立した噴気孔植生	阿寒湖畔ボツケ	・エゾシカの影響を受けている噴気孔植生の維持回復のための植生現況の把握。
	白湯山ボツケ	・現時点ではエゾシカの影響度合いが低いことから、エゾシカが植生に与える影響の把握。

##### ①-2 雌阿寒岳の中腹以上及びオンネトー周辺

公園を特徴付ける植生等	調査地点	調査の主眼
本公園の白眉である雌阿寒岳の高山植物群落	雌阿寒岳	・高山帯でのエゾシカ影響の兆候確認。
	阿寒富士	
	鞍部	
アカエゾマツを主体とする原生林	雌阿寒岳及び阿寒富士登山道	・高山帯への移行帯である登山道において、エゾシカ影響の兆候確認。

②摩周地区

②-1 屈斜路湖及び湖の北西側外輪山

公園を特徴付ける植生等	調査地点	調査の主眼
良好な自然景観を呈する湖岸及び中島の針広混交林	屈斜路湖中島	・エゾシカの影響を受けている針広混交林の維持回復のための植生現況の把握。
原始性の高い自然植生	屈斜路湖北西岸	・現時点ではエゾシカの影響度合いが低いことから、エゾシカが植生に与える影響の把握。

②-2 硫黄山（アトサヌプリ）山麓及びその周辺

公園を特徴付ける植生等	調査地点	調査の主眼
火山活動に伴う地熱帯に成立した噴気孔植生	ポンポン山 和琴半島	・エゾシカの影響を受けている噴気孔植生の維持回復のための植生現況の把握。
火山砕屑物からなる平坦地に広がる植生	つつじが原	・イソツツジが優占する植生のエゾシカによる影響の把握。

②-3 摩周カルデラの外輪山及び西別岳

公園を特徴付ける植生等	調査地点	調査の主眼
摩周カルデラ外輪山に成立した亜高山植生	摩周カルデラ	・エゾシカの影響を受けている亜高山植生の維持回復のための植生現況の把握。
高山植生	西別岳	・高山帯でのエゾシカ影響の兆候確認。
自然性の高い針広混交林	神の子池	・エゾシカによる影響が把握できていないため、エゾシカが植生に与える影響の把握。
摩周カルデラ北側外輪山山麓における針広混交林の良好な森林景観	川湯	・エゾシカの影響を受けている針広混交林の維持回復のための植生現況の把握。

【参考情報】 森林所有者により別途実施されている植生モニタリング

<北海道森林管理局>

- ・エゾシカ簡易影響調査（簡易チェックシートによる天然林へのエゾシカの影響評価）
- ・詳細影響調査（詳細調査による天然林へのエゾシカの影響評価）

<前田一步園財団>

- ・簡易排除柵を用いた稚樹調査



5. 調査の工程

植生モニタリング実施スケジュール

調査実績 ←→ 計画スケジュール

●：過去の調査実施年

地区	保全対象	植生タイプ	調査地点	H23	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
				2011	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	
阿寒	① 阿寒湖岸の森林、湖上に浮かぶ島々およびパンケトー・パンケトーを含む雄阿寒岳一帯	森林植生	阿寒湖岸森林						●※	植生調査手法の 試行検討				モニタリング	
			阿寒湖北岸国有林 チウレイ川周辺			●	●							モニタリング	
			パンケトー		●	●	●								モニタリング
	噴気孔植生	阿寒湖畔ポッケ	●					●			対策検討 (現状把握)		モニタリング		
		白湯山ポッケ	●					●				モニタリング			
	② 雌阿寒岳の中腹以上及びオンネトー周辺	高山植生	雌阿寒岳、鞍部、 阿寒富士	●					●						モニタリング
		山麓植生 (登山道調査)	雌阿寒岳登山道									モニタリング	モニタリング		
阿寒富士登山道			●					●							
摩周	③ 屈斜路湖及び湖の北西側外輪山	森林植生	屈斜路湖北西岸		●	●	●						モニタリング		
			中島	●					●		対策検討 (現状把握)		モニタリング		
	④ 硫黄山（アトサヌプリ）山麓及びその周辺	噴気孔植生	和琴半島	●		●	●	●							モニタリング
			ポンポン山	●					●		対策検討 (現状把握)		モニタリング		
		硫気孔植生	つつじヶ原	●					●			モニタリング			
	⑤ 摩周カルデラの外輪山及び西別岳	森林植生	摩周カルデラ	●					●						モニタリング
			神の子池									調査地選定及び モニタリング			
川湯						●							モニタリング		
高山植生		西別岳	●					●			モニタリング				

※地方独立行政法人北海道立総合研究機構による実施